現在、そして未来の人々に
よりよい暮らしを

2012

サステナビリティ・リポート 2012 日本版

P&G

世界の人々の、よりよい明日のために。
—P&Gの環境保全、社会貢献への取り組み—

P&Gは、企業理念の中で「現在そして未来の、世界の人々によりよい暮らしを」と掲げ、全社的な課題として、サステナブルな社会（持続可能な社会）の実現に取り組んできました。「環境保全（製品、事業活動）」と「社会貢献」を重点分野に定め、世界各地で働く社員の一人ひとりが日々の業務の中で、未来の子どもたちに豊かな暮らしを残せるよう努力をしています。環境に配慮した製品やサービスの提供、事業活動における環境負荷の低減、衛生的な暮らしや教育の機会に恵まれない子どもたちの支援など、多岐にわたる活動を展開しています。

P&Gのサステナビリティ活動の枠組み

40周年を節目に、さらなるサステナビリティへの決意

P&Gは、1973年の日本における事業開始から40周年を迎えようとしています。日本の消費者の皆様に当社の製品をお届けしたいという一心で、多くを学び、熱意をもってチャレンジを乗り越え、皆様に支えられて持続的な成長を成し遂げてきた歴史を思うと、感謝とともに深い感慨にたえません。また2012年はP&Gが米国で創業してから175周年の節目でもあります。これからの40年、さらにそのずっと先を見据えて事業の成長を考えるにあたり、サステナビリティは極めて重要です。

当社の企業理念は「暮らしをよりよくすること」にあります。サステナビリティを実践し、現在だけでなく将来にわたってよりよい暮らしを実現し続けることが、当社の企業理念を全うすることになります。製品のイノベーション、事業活動における環境保全への取り組み、そしてより豊かな社会を目指す社会貢献活動において、これからも継続して力を注いでまいります。

その活動の指針とすべく、当社ではサステナビリティにおける全世界的な長期ビジョンを掲げています（4ページ参照）。このビジョンでは、工場の動力源を100%再生可能なエネルギーにする、すべての製品および包装に100%再生可能材料またはリサイクル材料を使用する、埋め立て処理となる消費後の廃棄物と製造における廃棄物をなくす、という極めて高い到達点を設定しています。また、資源保存を最大化しつつ消費者の皆様に満足度の高い製品を提供することも掲げており、そのためにはイノベーションを生み出し続けなくてはなりません。

昨年度は、2007年にスタートした5カ年目標の最終の年でした。製品、事業活動、社会貢献活動それぞれにおける5年間にわたる取り組みは着実な成果をあげました。2012年度の最終結果をこのレポートでご紹介していますのでご一読いただければ幸いです。また、2010年に設定した2020年までの中期目標は、今期新たな課題を加え、合計12項目となりました。今後は、これまでの成果を土台にしてさらに長期ビジョンに向けて前進すべく、この中期目標を達成するために尽力します。

また社会への貢献活動もサステナビリティの大切な要素です。とくに昨年の東日本大震災における被災者の方々への支援において当社の製品を役立てることができ、日々の暮らしを支えるメーカーとしての責任をこれまでにもまして重く受け止めました。そしてその責任を果たすことが私たち社員の誇りでもあります。当社の社会貢献テーマである女性支援・子ども支援と合わせて、当社ならではの、製品を生かした社会貢献活動をさらに拡大してまいります。

一人ひとりの社員が、自らの日々の仕事が着実に皆様のよりよい暮らしにつながることを心に刻み、サステナブルな成長を目指します。そして社員一同、皆様への感謝をもって40周年を祝すとともに、未来のイノベーションに向けてまい進いたします。

プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン株式会社

代表取締役社長　奥山真司

編集方針

「サステナビリティ・リポート2012（日本版）～現在、そして未来の人々によりよい暮らしを～」は、P&Gグループが2007年に策定し2012年度に終了した「サステナビリティの5カ年目標」の最終実績と、長期ビジョン、2020年に向けた中期目標への取り組みを中心にまとめました。P&Gは、サステナビリティの課題を世界規模でとらえ、世界約75カ国にある拠点が協力することで、規模の大きな成果をあげることを目指しています。そこで本リポートは、P&Gグループの世界規模での活動と、国内での活動の両方について、具体的な事例を紹介しています。

●対象期間：
2012年度（2011年7月～2012年6月）
上記以外の期間の活動も含む

●報告書発行時期：
前回2011年12月、次回2013年12月予定

サステナビリティ活動ならびに企業情報の詳細は当社ウェブサイトをご覧ください。

P&Gジャパン
http://jp.pg.com/

P&G米国本社
http://www.pg.com/en_US/index.shtml

グローバル・サステナビリティ・リポート
http://www.pg.com/sustainability

2012年目標（2007～2012年度）と最終実績

2007年に策定したサステナビリティ5カ年目標が、2012年度に最終年を迎えました。5年間にわたり、事業のあらゆる側面で、全社員が目標に向かって取り組みを続けた結果、各項目で進展が見られました。以下に、最終実績をご報告します。

製品における環境保全

目標

従来の製品に比べ、環境に与える影響が有意に少ない（>10%）「サステナブル・イノベーション製品」を、累計売上高500億ドル分以上開発し、市場に送り出す。

実績（2007年7月からの累計売上実績）

サステナブル・イノベーション製品の累計売上高	約520億ドル

事業活動における環境保全

目標

P&Gの工場におけるエネルギー消費量、CO_2排出量、廃棄物量、水使用量について、生産単位あたり20%をさらに削減し、10年間の合計で少なくとも50%を削減する。

実績（生産単位あたりの削減実績）

	2007年度比	2002年度比
エネルギー消費量	-16%	-52%
CO_2排出量	-14%	-54%
廃棄物量	-71%	-74%
水使用量	-22%	-58%

社会貢献

目標

「Live, Learn and Thriveプログラム」により、3億人の子どもたちを支援する。「子どもたちのための安全な飲み水プログラム」で40億リットルのきれいな水を提供することにより、1億6千万日分の病気を防ぎ、2万人の命を守る。

実績（2007年7月からの累計）

Live, Learn and Thriveプログラム	
支援した子どもの数	約4億人
子どもたちのための安全な飲み水プログラム	
届けたきれいな水	約42億2,000万リットル
病気を防いだ日数（試算）	1億7,000万日以上
守った命（試算）	22,000人以上

長期ビジョン

- 当社の工場の動力源を100%再生可能なエネルギーにする。
- すべての製品および包装に100%再生可能材料、またはリサイクル材料を使用。
- 埋め立て処理となる消費後の廃棄物、製造における廃棄物をなくす。
- 消費者を満足させると同時に、資源保存を最大化する製品設計の採用。

2020年までの中期目標

製品における環境保全

再生可能材料	製品と容器・包装に使用している石油由来の原材料の25%を、サステナブルに調達できる再生可能材料に置き換える※1
	2015年までに、すべてのパーム油を、信頼できるサステナブルな供給源から購入する
	NEW 2015年までに、紙製品および吸収性のある衛生製品に使用するリサイクル以外の木材繊維すべてを第三者認証を得たものにする。紙製品に使用するリサイクル以外の木材繊維の40%をFSC認証のものにする
	NEW 2020年までに、すべての紙包装を、リサイクル紙または第三者認証紙にする
廃棄物	埋め立て処理される消費後の固形廃棄物ゼロを目指して、先進市場と開発途上市場の両方で試験的研究を行う
お湯を使わない洗濯	洗濯回数合計の70%を、お湯を使わない洗濯にする
容器・包装削減	消費者1回使用あたりの容器・包装量を20%削減する※1

事業活動における環境保全

再生可能エネルギー	当社工場での再生可能エネルギー使用を30%に引き上げる
	NEW 2020年までに当社施設によるエネルギー消費量、CO_2総排出量※2を生産単位あたり20%削減する※1
生産活動からの廃棄物	生産活動で出る廃棄物の埋め立てを、原材料投入量の0.5%以下にする
輸送	生産単位あたりのトラック輸送を20%削減する※1

社会貢献

毎時間1人の命を救う	毎年20億リットルの安全な飲み水を供給することで、1時間あたり1人の命を救う

※1:2010年ベース　※2:電力の使用による排出含む

製品における環境保全

**原材料段階から、使用、廃棄されるまで
製品のライフサイクル全体を通して、
包括的に環境負荷を削減し、
人と環境に安全な製品づくりを追求しています。**

サステナビリティの実現のために、メーカーである私たちが果たすべき最も重要なことは、人と環境に安全で安心な製品をお客様に提供することです。原材料を選び、製品をつくり、ご家庭で使用されて最後は排水や廃棄物として処理されるまで、製品のライフサイクル全体を通して、環境と人に対する安全性を確認しています。また、製品ライフサイクルの各段階における環境負荷を把握することで、各製品について、どの段階で、どの側面に集中して改善を図ることが最も効果的かが明らかとなります。

環境側面に優れた製品づくりを進めつつも、性能や価格といった、お客様に提供する製品の「価値」には一切妥協しないことが大前提です。深いお客様理解とイノベーション力を生かして、お客様の期待を超える価値を追求しつつ、環境面でも優れた製品をご提供しています。

“従来より環境への影響が有意に少ない製品を累計売上高500億ドル分以上開発する”という2012年までの5カ年目標に対して、約4%上回る520億ドル分を達成しました。

多側面で削減効果
衣料用洗剤のコンパクト化

液体洗剤の濃縮コンパクト化によって、様々な側面から環境負荷の削減に効果をあげています。2011年発売の「アリエールレボ」に続き、2012年3月に柔軟剤入り洗剤「ボールド」からも濃縮タイプを発売しました。同じ量の洗濯物に必要な洗剤重量が約2.5分の1となり、お洗濯1回あたりでみると、製品に使われる水と、輸送に使うエネルギーおよびCO_2排出量を削減しました。また容器もコンパクト化したため、プラスチック使用量と、お客様が製品を使われた後の廃棄物削減に成果をあげています。すすぎ1回のお洗濯も可能なので、ご家庭での節水・節電にも貢献しています。

アリエールレボ

ボールド コンパクト
ダウニーエイプリルフレッシュの香り

再生可能材料を包装に利用
竹、サトウキビなどが原料

製品パッケージの素材を、石油由来の材料から、植物などを原料とする再生可能材料に換える試みを進めています。男性用かみそり「ジレット」の外側パッケージとトレーには、石油由来プラスチックを使用していましたが、現在、一部の製品において、容器の主要部分に、竹、サトウキビ、フトイなど生育の早い植物の繊維をモールド成形したものを使っています。容器の開発は、成形繊維サプライヤーのBe Green® Packaging社と協力して行いました。繊維素材の使用にあたっては、圧力やシール時、開封時、流通時に加わる力に十分な強度をもつよう設計しています。

従来のプラスチック容器

再生可能原料を使った容器

安全で安心な製品を高い品質でお届けする

P&Gでは、お客様に安心して使っていただけるよう、製品そのものはもちろん、一つひとつの原材料や容器についても、安全性を確認しています。その際、万一誤った使われ方をした場合も想定し、安全性評価を行っています。
また、「品質保証のための19の要素」を定め、品質管理を徹底しています。例えば、製品が安全性を確保し必要な確認プロセスを踏んで開発されたか、決められた手順に従って生産されたか、適切な条件で保管・輸送されたかなど、製品開発からお客様に届くまでのすべての過程において、社内外の基準や法律を遵守し、品質が保たれていることを確認しています。

50年以上の歴史ある環境安全性研究

研究成果を広く社会に公開

P&Gは企業の社会的責任として、古くから業界に先駆けて、環境安全性に関する研究に力を入れてきました。当社が扱う製品関連分野を中心に、時代によって変遷する社会的課題に対応して、研究分野を広げています。

米国、ヨーロッパ、アジアで環境安全性に携わる研究者たちが、生態学、微生物学、分析化学、環境工学など多岐にわたる研究を進め、互いにその知見を共有しています。また社外との交流も盛んで、OECD（経済協力開発機構）などの公的機関、大学や業界との共同研究や、学会などでの論文発表も行い、P&Gの研究成果を社会全体の財産として活用していただけるよう提供しています。例えば、洗剤などの成分が排水として環境に排出されてからの分解性をチェックする第一関門である易生分解性試験として、P&Gの研究者が開発した評価法は、現在では多くの国で評価基準として取り入れられています。

〈左〉
P&Gが初めて発表した環境安全性に関する論文
「河川中の界面活性剤の測定」
（1956年）

〈下〉
P&Gが環境安全性に関する研究を初めて取り入れた製品
衣料用洗剤「ドレフト」（1958年）

パンパース

製品重量を減らし使用後のゴミを削減

紙おむつ「パンパース」は、赤ちゃんのはき心地や吸収力といった機能性の向上に努める一方で、環境へも配慮した製品開発を続けてきました。2000年と現在の製品を比較すると、おむつ1枚あたりの重量は約27%減。使用後の廃棄物量の削減に大きく貢献しています。

©Benesse Corporation/しまじろう

ファブリーズ

布用スプレーのボトル重量を13%削減

布製品リフレッシャー「ファブリーズ」のスプレー容器を、2012年2月に全面リニューアル。製品の容量は変えずに、ボトル重量を約13%削減しました。またリサイクルできるPET樹脂を使用し、環境負荷を減らしました。同時に新型噴射ノズルを採用し、細かく均一なミストで効率よくスプレーできるようになり、環境側面と、お客様への価値の両方を高めることができました。

SK-II

取扱説明書をなくし、パッケージ印刷に

プレミアムスキンケア製品「SK-Ⅱ」では、2011年度から昨年度にかけて、全製品を対象に同梱していた説明書をなくし、使用方法や注意表示を外箱に記載するように変更しました。その結果、全製品合計で約7.5トンの紙を削減することができました。また、「SK-Ⅱアドバンスト アイ トリートメント フィルム」のプラスチックトレーを廃止して外箱とチューブのみにし、プラスチック使用量を約49%削減しました。

地域のゴミ処理インフラの改善へ フィリピン・アンティポロで試験的研究

P&Gが長期ビジョンに掲げる“製品の使用後に出る固形廃棄物の埋め立て処理ゼロ”を達成するには、製品が使われている地域の廃棄物処理インフラ自体を見直すことも必要です。そこでP&Gでは、政府や自治体など様々なステークホルダーと協力し、廃棄物処理フローを改善する試験的研究を行っています。

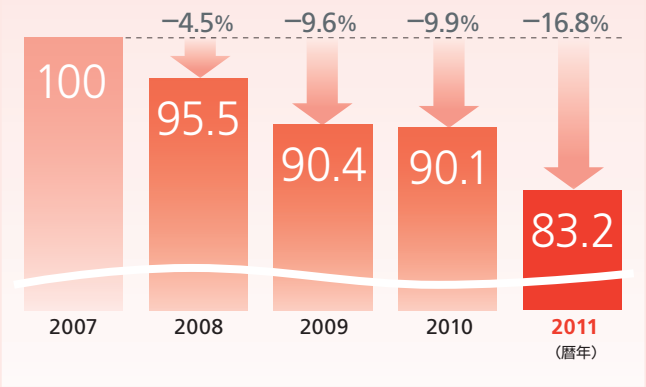
開発途上地域に対しては、Waste to Worthチーム（“ゴミを価値に換える”の意味）を結成し、廃棄物インフラの改善に取り組んでいます。これまで捨てられていたものを価値ある形に変え、利益が出せるサステナブルなビジネスモデルの確立を目指し、現在、フィリピン・アンティポロ市で、アジア開発銀行とのパートナーシップのもと、試験導入を進めています。

容器削減による 省資源と廃棄物削減

容器ボトルの薄肉化や詰替え製品の導入による省資源・廃棄物削減、リサイクル原料や再生可能原料の使用など、製品容器による環境負荷の削減に努めています。また製品だけではなく、輸送時の梱包などでも環境に配慮しています。

国内製品の容器※に使用しているプラスチックについて、2007年比（暦年）で、2011年は16.8%の削減を達成することができました。

国内製品の容器※に使用したプラスチック量
製品出荷単位あたり／2007年（暦年）を100とした場合



※シャンプー・リンス、洗濯用液体洗剤、柔軟剤、台所用洗剤の容器

2020年に向けた新たな目標

サステナブルな森林資源の利用

過剰な伐採などによる森林破壊は、植物だけでなく動物も含めた生物多様性の減少にもつながる深刻な問題です。P&Gは、消費財メーカー・流通業界による国際組織「コンシューマー・グッズ・フォーラム」のメンバーとして、2020年までに森林破壊ゼロ達成を目指して取り組みを進めると宣言しています。製品や容器に使用するパーム油に加え、新たにパルプ、紙に関する中期目標を掲げました。

- 2015年までに、紙製品および吸収性のある衛生製品に使用するリサイクル以外の木材繊維すべてを第三者認証を得たものにする。紙製品に使用するリサイクル以外の木材繊維の40%をFSC認証のものにする。
- 2020年までに、すべての紙包装を、リサイクル紙または第三者認証紙にする。

事業活動における環境保全

**世界共通の基準と目標を掲げ、
全社員がすべての事業活動において
環境保全に取り組むことを徹底。
社外パートナーと協働のもと
サプライチェーン全体を通じた活動を行っています。**

P&Gでは7項目にわたる環境方針を定め、環境負荷の低減に向けてグローバル規模の取り組みを続けています。活動は生産現場のみならず、原材料調達、完成品の保管・輸送、オフィスなどすべての事業活動において、全社的に、かつ計画的に行われています。そのため、サプライヤー（供給業者）、委託生産パートナー、輸送・倉庫業者といった社外パートナーとも協力体制を築き、サプライチェーン全体での環境保全に取り組んでいます。

生産段階では、エネルギー消費量、CO_2排出量、廃棄物量、水使用量の4項目で、P&Gグループ共通の削減目標を設定し、世界各地に広がる各生産拠点での進捗状況を全社的にトラッキングしています。また、世界的に高い基準にのっとった当社独自の「安全衛生・環境マネジメントプログラム」を策定・実行しており、この中の環境マネジメントプログラムはISO14001で求められる主要な5要素を満たしています。

2012年までの5カ年目標については、廃棄物量と水消費量の2項目で目標の20％を上回り、それぞれ71％と22％の削減を達成しました。エネルギー消費量とCO_2排出量については目標には届きませんでしたが、それぞれ16％と14％の削減ができました。

化学物質の管理

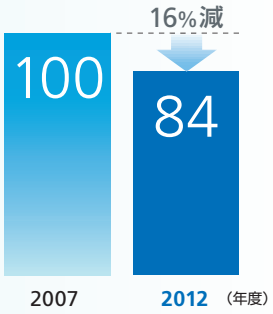
P&Gグローバルで設定された方針、基準、プロセスのもと、日本でのリスク管理および化学物質管理を実施しています。各工場および研究所では、化学物質の購入から使用、廃棄までを管理するインベントリーシステムを運用しています。社内基準はもとより、PRTR法※、大気汚染防止法、水質汚濁防止法などの国内の法規制を遵守しています。

※化学物質排出把握管理促進法

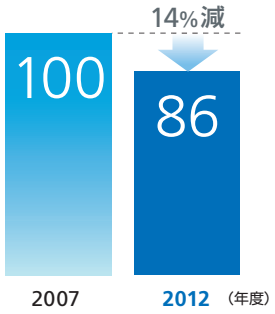
P&Gグループ世界全体での生産活動における環境負荷低減の歩み

2007年度を100とした場合／生産単位あたり

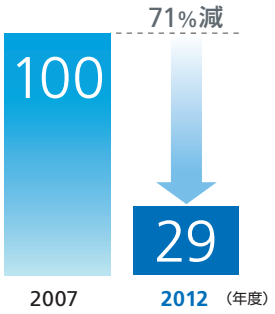
エネルギー消費量



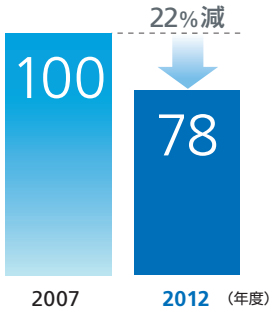
CO_2排出量



廃棄物量



水使用量



P&Gの環境方針

- 当社の製品・容器包装・事業活動が、消費者、社員そして環境にとって安全であることを保証する。
- 当社の製品および容器包装について、設計、製造、流通、使用、使用後の処理のすべてにおいて環境に与える影響を可能な限り削減する、またはゼロにする。
- 環境に関わるすべての法律および規制の要件を満たすか、またはそれを上回る。
- 環境に関わる当社のテクノロジーやプログラムを絶えず見直し、事業所ごとの環境目標に向けての進捗状況を監視する。
- P&Gの製品・容器包装・事業活動が環境に与える影響について、適切な事実に基づく情報を消費者、得意先、社員、地域社会、公共団体などに提供する。
- 社員の一人ひとりが、日常の仕事の中に環境への配慮を織り込んでいくことを理解し、責任をもつように教育する。
- 環境保全に関する方針を実行に移すため、適切な事業運営方針、プログラム、および財源・資源をもつ。

P&Gグループ世界全体での環境負荷データ

各生産工場、テクニカルセンター、物流センターでの生産活動による2012年度の環境負荷データの概要

生産

製品出荷量	25,618千トン
リサイクル原料使用量	646千トン

廃棄物

総廃棄物量	985千トン
リサイクル／再利用率	79%
固形廃棄物―非有害物質	157千トン
固形廃棄物―有害物質	20千トン
水を除いた水系への廃棄物	22千トン
大気への排出物 注1	13千トン

その他

エネルギー消費量	72,306千GJ
温室効果ガス直接排出量 注2	2,799千トン
温室効果ガス総排出量 注3	5,827千トン
水使用量	78,564千㎥
SARA排出量 注4	1,650トン

注1：大気への排出には、煤塵、SO_2、NOx、CO、VOCが含まれています。
注2：温室効果ガスは、燃料の燃焼から発生したものです。
注3：直接排出分に電力使用による排出分を加えたものです。
注4：米国環境保護庁がスーパーファンド修正および再授権法（SARA）で規定している排出物。

特集

2012年目標 ―国内3工場の5年間の取り組み―

2007年からの5年間、P&Gグループが全社的に取り組んできた4つの環境負荷削減目標（エネルギー消費量、CO_2排出量、廃棄物量、水使用量の削減）に対し、国内の3つの工場でも継続した努力を行ってきました。目標終了年となる2012年度までの取り組みのハイライトを、削減項目別にご紹介します。

エネルギー消費量

節電ニーズにこたえ包括的に削減努力

電力使用量の削減に継続的に取り組むことで、間接的なCO_2排出量の削減と省資源に貢献しています。特に2011年度以降は、東日本大震災後の社会全体における節電ニーズの高まりにこたえ、各工場では部署横断的にチームを結成して包括的な取り組みを推進、生産活動に影響を与えることなく成果をあげています。主な取り組みとして、生産設備の高効率モデルへの刷新や効率化、空調や照明の高エネルギー効率化などが挙げられます。

高崎工場では、社内および取引先、東京電力と協力し、15%の節電要請を上回る約20%の節電を実現しました（2012年度）。具体的には、圧縮空気をつくるエアーコンプレッサーの運転効率向上とエアー使用量の削減、粉回収設備の効率化などを行いました。滋賀工場でもエアーコンプレッサーの消費電力を設備の刷新により約35%削減（2011年度）。同年に全照明をインバータータイプに交換し、人感センサーを採用して、照明用電力を約45%削減しました。

エアーコンプレッサーを刷新し約35%の節電（滋賀工場）

明石工場では空調用冷凍機の一部をインバータータイプに変更するとともに、熱交換チューブを清掃するクリーニングボールを導入して熱交換率の低下を防止し、対象となった冷凍機の消費電力を約36.7%削減しました（2011年度）。

空調用冷凍機の消費電力を約36.7%削減（明石工場）

CO_2排出量

天然ガスへの転換などCO_2の直接排出を削減

工場から直接排出されるCO_2を削減するために、重油などの化石燃料使用の削減や、燃焼時のCO_2排出量が石油より少ない天然ガスへの転換、焼却施設の見直しなどに取り組んできました。

滋賀工場では、蒸気を作るボイラーを重油から天然ガス方式に更新。年間13%以上のCO_2削減につなげました。ボイラー自体も低NOxで高効率な機種を選んでいます（2009年度）。また滋賀工場では設備を高温殺菌するために、多くの蒸気や高温純水が必要です。P&Gグループの他の工場と情報交換しながら、殺菌プロセスを改良して、蒸気と純水の無駄を削減するプログラムに着手しました。年間1割以上の天然ガスと水使用量の削減を目標にしています。

ボイラーを天然ガス方式に転換し約13%のCO_2排出削減（滋賀工場）

高崎工場では、2008年度から、ボイラー蒸気ドレン回収ラインを改善し、蒸気ドレンの熱量を再利用して、ボイラーへの給水温度を上げ、重油使用量を削減しています。また2007年度から粉末洗剤の生産改善プロジェクトを開始。従来の生産プロセスに占める乾燥工程の比率を3分の1にして、乾燥塔での重油使用量を減らすなどし、昨年度は、工場全体の重油使用量を2007年度比で生産単位あたり約45%削減しました。

工場全体の重油使用量を5年間で約45%削減（高崎工場）

明石工場は、生産工程に燃料を使用していないため、CO_2の直接排出量はごくわずかです。

明石工場（兵庫県明石市）1982年設立　**主な生産品目：**紙おむつ、生理用品

滋賀工場（滋賀県野洲市）1971年設立　**主な生産品目：**化粧品

高崎工場（群馬県高崎市）1961年設立　**主な生産品目：**衣料用洗剤、柔軟剤、消臭芳香剤、台所用洗剤

廃棄物量

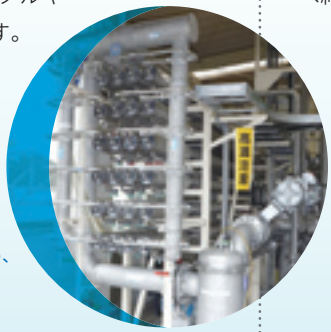
埋め立て処理ゼロに向けてリサイクル強化

長期ビジョン“生産活動からの廃棄物の埋め立て処理ゼロ”の達成に向けて、廃棄物の削減とリサイクル率向上に取り組んでいます。滋賀工場では、取引先との通い箱を段ボールから繰り返し使えるケースに変更するとともに、廃棄物リサイクル業者との提携により、昨年度、100％リサイクルを達成。埋め立て処理ゼロをいち早く実現しました。

明石工場では、紙おむつのデザインと生産工程を見直し、新しいデザインの製品は、従来廃材となっていたトリム部分をなくしました（2009年度）。また生産工程で発生する廃棄製品や廃材は取引先との協力により、猫砂や再生プラスチックなどに有効利用しています。現在、工場全体のリサイクル率は約99.8％に達しており、今年度中の100％達成を目指しています。

再生プラスチックや猫砂として、廃棄製品や廃材をリサイクル（明石工場）

高崎工場では、原料の容器などはほぼ100％リサイクルしています。残りの廃棄物は生産工程を洗浄した後の廃液や汚泥などで、2011年度から熱回収などによるリサイクルや全体量の削減に精力的に取り組んでいます。期末（6月）時点での工場全体の廃棄物リサイクル率をみると、2010年は約30.2％、2011年は約55.8％、2012年は約80.6％と順調に推移しており、引き続き残りの廃棄物の有効利用先を探しています。



ウルトラフィルターの洗浄効率を高め、洗浄水廃棄量を削減（高崎工場）

水使用量

効率利用と3Rで節水を推進

P&Gの工場では、生産設備の洗浄や機器の冷却などに、水を多く使用しています。使用後の水のリユース／リサイクルの推進、生産プロセスの見直しや設備の最新化により、水使用量の削減を進めています。

化粧品を生産する滋賀工場では、製品や生産設備の洗浄に純水を用いており、純水製造装置内の微生物汚染を防ぐために、アイドル時も常に純水の製造と排水を行っていました。十分に汚染を防ぎつつ、効率のよい洗い流し条件を見つけ出すことによって水使用量を削減しました（2010年度）。製造設備の洗浄にも多量の水が必要ですが、工場担当者と研究開発部門が協力し、効率的な洗浄プロセスへの改良を続けています。

純水製造装置の洗浄に使用する水を削減（滋賀工場）

明石工場では冷却塔にスケール防止剤を導入し、冷却水の不純物濃度の許容限界を引き上げることで、冷却水の排水頻度と排水量を削減。冷却水用の水使用量を導入前に比べ約29.5％引き下げました（2011年度）。

冷却塔に使う冷却水を約29.5％削減（明石工場）

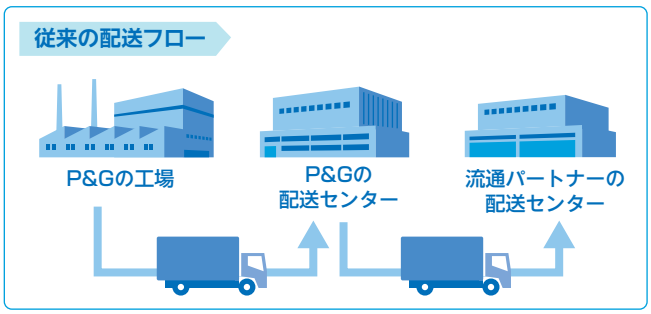
国内での取り組み 物流

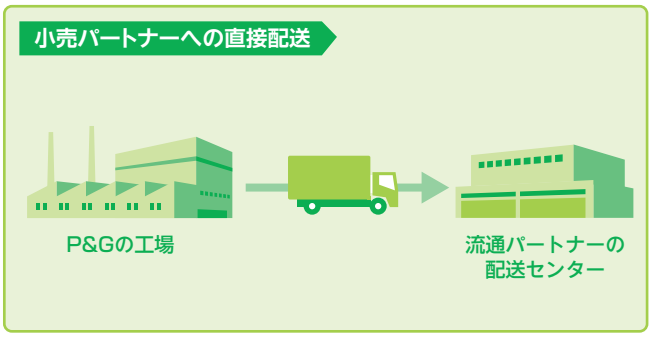
倉庫間輸送の集約、積載効率向上で約10%（2006年度比）のCO_2排出削減

輸送にかかるエネルギーとCO_2排出量削減を目指して、倉庫間輸送の集約、トラックの積載効率の向上などに継続的に取り組んできました。2006年度（3月締め）から改正省エネ法により、特定荷主として輸送に関わるエネルギー使用の把握と報告を行っており、昨年度は2006年度比で単位輸送量あたり約10%のCO_2を削減することができました。

施策の一つである倉庫間輸送の集約では、配送センター数の集約のほか、工場から出荷した製品を配送センターに保管していたところを、流通パートナーへの直接配送を増やすことで、輸送にかかるエネルギーのほか、倉庫のオペレーションにかかるエネルギーも削減しています。この直接配送比率は、2007年度に比べ、約2倍となりました。

一方、トラックの積載効率の向上事例としては、輸送業者との協力体制を強め、輸送回数を最小化できる積載効率の高いトラックの選定や、発注量にあわせて高積載が可能な車種を選定するようにしました。また流通パートナーにも協力を仰ぎ、積載効率が高い単位での発注を奨励しています。





流通パートナーとの戦略的な協働により、直接配送比率を拡大

国内での取り組み オフィス

1年前倒しで目標達成 エネルギー・水・廃棄物・紙を削減

神戸本社、東京オフィスでは、事務所内で使用するエネルギー、水、廃棄物、紙について、2013年までの削減目標を掲げて取り組んでいます。2012年度は、4項目すべてにおいて1年前倒しで目標を上回ることができました。

昨年度に行った主な取り組みの一つは、エネルギー効率の高い設備やインフラへの切り替えです。データセンターの冷却塔の交換、ビルのスペース効率の改善、不要なスペースの閉鎖などを行いました。

また、関西地域をはじめとする電力不足への懸念に対応し、節電に集中して取り組みました。2011年から2012年夏にかけて、神戸本社、東京オフィスそれぞれで照明を約50%削減しました。また、ワークライフバランスの観点から、水曜日と金曜日に残業を減らして早く帰宅するよう社員に促す活動を行っており、その結果、オフィスのエネルギー使用量削減にも効果が見られました。

すでに目標は達成しましたが、今年度も引き続きオフィスのスペース効率の改善をはじめ、省資源、省エネルギー活動に取り組み、さらなる環境保全を進めます。

P&G神戸本社ビル・東京オフィス 2012年度実績
（2007年度を基準とした削減率）

	2012年度実績	2013年度目標
エネルギー	-34.2%	-15%
水	-27.5%	-10%
廃棄物（リサイクル除く）	-38.8%	-36%
紙 購入量（A4/レターサイズ枚数）	-60.6%	-48%

全体の7%が再生可能エネルギー バイオマスボイラーなど活用が進む

P&Gグローバル全体では、生産活動に使うエネルギーの約7%を、再生可能エネルギーでまかなっており、2020年までに30%に引き上げることを目指しています。現在、社内専門チームが、先進企業や大学の専門家と協力し、経済面と環境面の両方でサステナブルな技術とプロジェクトを精査し、優先順位を検討している段階です。事業のあらゆる側面について、様々な種類の再生可能エネルギーの組み合わせを視野に入れています。

実践例として、米国ジョージア州 アルバニー工場では、再生可能資源を用いたバイオマスボイラーで蒸気をつくり、エネルギーを得ています。ボイラーには現地調達した木材を使用しているため、化石燃料に比べ全体的なCO_2削減（カーボンニュートラル）に貢献し、また地域の雇用創出の一助にもなっています。木材は、ボイラーの振動式火格子上で燃やされ、ボイラーから出る煤塵は湿式電気集塵装置で集められて、残った灰は農地の肥料として有効利用されています。

廃棄物の有効活用で、埋め立て処理ゼロを目指す

生産活動から出る廃棄物の埋め立て処理ゼロという長期ビジョン達成へ向けて、2020年の中間目標として、埋め立て処理を原材料投入量の0.5%以下に減らすことを目指しています。昨年度は廃棄物のリサイクル、リユース、エネルギーへの変換を進めたことにより、原材料投入量の99.2%を有効利用することができました。残りの廃棄物の再利用方法を見出すことは容易ではありませんが、引き続き、コスト効率の面でも優れた革新的なソリューションを探っていきます。

2020年に向けた新たな目標

環境負荷の削減

“生産設備を100%再生可能エネルギーでまかなう”という長期ビジョンに近づくために、2020年までの中期目標として、引き続きエネルギー消費量と、CO_2総排出量（電力の使用による排出含む）の20%削減（2010年度比／生産単位あたり）を目指します。

当社の環境保全への取り組みは、設備稼働を最善の状態に戻し、エネルギーを無駄にしている箇所を見出し、最も効率のよい状態へ修正する“Back to base”と呼ぶアプローチとともに、オペレーション戦略の中に織り込まれています。エネルギーに関して、最も成果をあげている事業所を見つけ、その成功事例を他の事業所に再適用しています。また、画期的なテクノロジーを生み出すために、部署横断的なチームで解決にあたることも、戦略としています。

社会貢献

「世界の人々によりよい暮らしを」という
企業目的を達成するために、
製品やサービスの提供はもちろんのこと、
社会に利益を還元することが不可欠であると考え、
P&Gの強みを生かした社会貢献を行っています。

Live〈生きる〉
子どもたちが
健やかに育つために

Learn〈学ぶ〉
子どもたちに
学習の機会や手段を
提供するために

Thrive〈はばたく〉
子どもたちが
豊かな暮らしをおくる
スキルを身につけるために

次世代を担う
世界の子どもたちを支援
Live, Learn and Thrive プログラム

持続可能な社会を実現するためには、未来を担う子どもたちが、健やかな生活と、自分の力で将来を切り開く力を身につけられるよう、学びの機会を得ることが大切だと考え、「Live, Learn and Thrive（生きる、学ぶ、はばたく）」と冠したフィランソロピー活動を世界各地で展開しています。現在、120カ国以上でプログラムを実施しており、昨年度末までに、累計4億人の子どもたちを支援しました。

これによって、2012年までの5カ年目標“3億人の子どもたちの支援”を大きく上回ったほか、“「子どもたちのための安全な飲み水プログラム」により、40億リットルのきれいな水を提供し、1億6千万日分の病気を防ぎ、2万人の命を守る”という目標も、すべての項目で達成することができました。

Live, Learn and Thrive プログラム

支援した子ども
4億人

子どもたちのための安全な飲み水プログラム

提供した水
42.2億リットル

病気を防いだ日数（試算）
1億7千万日以上

守った命（試算）
2万2千人以上

※2007年7月～2012年6月

子どもたちを支援するグローバルでの活動

グローバル

“1時間に1人の命を救う”ことが目標
子どもたちのための安全な飲み水プログラム

「子どもたちのための安全な飲み水プログラム」は、P&Gがグローバル展開している全社的なフィランソロピー活動です。安全な飲み水が手に入らないために、世界では毎日約4,000人の子どもたちが、コレラや赤痢などの下痢疾患が元で命を落としています。P&Gは米国疾病対策センター（CDC）と簡易浄水剤テクノロジーを共同開発。2004年から、安全な飲み水が恒常的に手に入らない地域や、災害や紛争時の緊急支援物資として浄水剤を提供しています。2012年9月には、2004年からの累計で50億リットル分の水を提供。これによって、2億日以上の病気日数を予防し、約2万6千人の命を守れたと推計しています。

子どもたちのための安全な飲み水ウェブサイト（英語） http://www.csdw.org

1包で約10リットルの水を
浄化できる「P&G簡易浄水剤」

インド

教育（シクシャ）の機会を小学生に

インドでは、児童の約半数が小学校に通えていません。P&Gでは2005年から、社会貢献型マーケティング活動「シクシャ（教育）」を続け、問題解決に貢献。これまでに200校の小学校建設を支援し、約38万5千人の児童に教育の機会を提供しました。一方、生理用品ブランド「ウィスパー」は、約250万人の女子生徒に初経教育を実施。生理への適切な対処が普及しておらず、女子の欠席日数が年平均50日という現状の改善が期待されています。

メキシコ

手洗いを習慣づけて、病気を予防

手を洗うことは、下痢疾患や肺炎を簡単かつ効果的に防ぐ方法です。薬用石けんブランド「エスクード（セーフガード）」は、メキシコで手洗い習慣を根付かせる活動を2009年から続けています。ユニセフの「世界手洗いの日」に協力し、約100万人の子どもに正しい手洗いを教えました。2012年には国際NGOセーブ・ザ・チルドレンと協力し、全国の学校でのワークショップを開始。これまでに1万3,000人の子どもが参加し、下痢疾患が半減、病欠が11%減というデータが出ています。

国内では「子ども」と「女性」を中心に支援

国内の社会貢献活動では、「子ども支援」に加えて、「女性支援」にも力を入れています。その背景となるのは、美容・生活関連製品を提供している企業として、女性の暮らしや心とからだに関する知識を長年にわたり蓄積してきたこと、またダイバーシティ（多様性に富んだ社員の活用）を企業戦略の一つに掲げており、女性の人材活用に関する高い実績と豊富なノウハウをもっていることです。これらの社内資産を広く社外でも生かせるよう、NPOや自治体とも協力しています。

きっと、
もっと輝く私。

女性支援

女性のいきいきとした暮らしを応援

NPO【仕事と子育て】カウンセリングセンターほか

出産後も働き続ける女性が増え、企業の支援制度が充実してきていますが、仕事と子育ての両立に困難を感じている女性は今も多くいます。企業側も、女性活用をいかに進めればよいか悩む管理者が少なくありません。P&Gは、このような社会問題の解決に貢献するために、NPO【仕事と子育て】カウンセリングセンターを2006年の設立当初から支援しており、社員講師やボランティアの派遣、イベント協賛などを行っています。

昨年度、NPOの情報発信拠点「“輝く私”神戸RICステーション」は、近隣に住む女性を中心に約1,700人の利用がありました。また同NPOが行った東日本大震災の被災地支援活動にP&Gが特別協賛。福島県の保育士さんを対象に「見えない不安とどう向き合うか」をテーマにした精神科医による講演やグループカウンセリングなどを開催。100人以上の保育士さんに参加いただきました。

社員ボランティアの支援・奨励

社員にボランティアの機会を提供し、積極的な参加を促しています。会社が主催するチャリティイベントや社会貢献活動のほか、社会貢献パートナーである自治体やNPO主催のイベントやセミナーの講師、企画、運営サポートなど、社員に活動機会を紹介し、参加を呼びかけています。
昨年度は、上記に加え、東日本大震災で被害にあった岩手県と宮城県に社員ボランティア計53人を派遣しました。また、社員が給与天引システムを使って自動的に寄付でき、集めた寄付金を有効活用するために社員ボランティアが寄付先を検討・決定する「P&Gジャパン社員寄付基金」も立ち上げました。

社員ボランティアが
がれきを撤去
（宮城県南三陸町）

子ども支援

子どもたちに水と環境の正しい知識を
社員ボランティアが出前授業

子どものころから水の大切さを理解し、関心をもってもらうために、社員ボランティアが講師となって小学校で出前授業をする「P&G環境教室～水と生活～」を2008年から続けています。現在、兵庫県と群馬県高崎市の小学3～6年生を対象に活動しています。

教材は、洗剤やシャンプーなど水との関連が深いP&G内で開発し、NPO法人日本水フォーラムとNPO法人日本持続発展教育推進フォーラムが監修したものです。水の大切さ、世界の水問題、水の循環、自宅でできる節水など、身近な問題をテーマに、実験なども交えて、子どもたちが興味をもって学べる授業内容です。同教材は、公益財団法人消費者教育支援センターより第8回消費者教育教材資料表彰の優秀賞を受賞しました。

平成23年度（3月締め）までに授業を受けた児童数は累計8,400人以上。出前授業と並行して、授業用テキストと先生用の手引きの無償配布も行っており、これも合わせると約75,400人の子どもたちが、同プログラムで学習しました。

United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

P&GはESDを応援しています。
ESDは持続可能な社会づくりを目指す活動です
(ESD:Education for Sustainable Development)

災害支援

東日本大震災 被災地へ継続支援

大規模災害が起きた際は世界各地のP&G社員および社外パートナーと連携し、災害支援を行っています。東日本大震災においても、子どもと女性の支援を中心に、阪神・淡路大震災で被災した自社の経験を生かして、時間とともに変化する現地のニーズに合わせた支援を続けています。

2012年6月、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンと連携して、宮城県石巻市、東松島市などで継続的な支援を行うことを発表しました。活動第1弾として、大型遊具をそろえた室内あそび場を提供するイベント「のびのび遊ぼう!おやこひろば」を東松島市で開催。親子で存分に体を動かして楽しめる場を提供しました。

サステナビリティの実現に対するコミットメントは、企業理念に明示されています。

P&Gは、「現在そして未来の、世界の人々の暮らしをよりよいものにする」
という企業理念を全うすることが、持続可能な社会の実現につながると考えています。
企業目的、共有する価値観、行動原則からなる企業理念を指針に、
社員一人ひとりが強い責任感をもって日々の業務を遂行しています。

企業理念
PVP

企業目的
Purpose

私たちは、現在そして未来の、世界の消費者の生活を向上させる、すぐれた品質と価値をもつP&Gブランドの製品とサービスを提供します。

その結果、消費者は私たちにトップクラスの売上と利益、価値の創造をもたらし、ひいては社員、株主、そして私たちが住み働いている地域社会も繁栄することを可能にします。

共有する価値観
Values

P&Gは、社員とその生き方を導く価値観（バリュー）とからなります。私たちは、世界中で最も優秀な人材を引きつけ、採用します。私たちは、組織の構築を内部からの昇進によって行い、個々人の業績のみに基づき社員を昇進させ、報奨します。私たちは、社員が会社にとって最も重要な資産であるという信念に基づき、行動します。

共有する価値観

- 誠実さ
- リーダーシップ
- オーナーシップ
- 勝利への情熱
- 信頼

行動原則
Principles

以下は、私たちの企業目的および共有する価値観から派生する行動原則です。

- 私たちは、すべての個人を尊重します。
- 会社と個人の利害は分かち難いものです。
- 私たちは、戦略的に重要な仕事を重点的に行います。
- 革新は、私たちの成功の礎です。
- 私たちは、社外の状況を重視します。
- 私たちは、個人の専門的能力に価値をおきます。
- 私たちは、最高を目指します。
- 相互協力を信条とします。

コーポレート・ガバナンスおよびコンプライアンス

P&Gのコーポレート・ガバナンス（企業統治）体制の基礎をなすのは、企業理念です。行動規範「ワールドワイド・ビジネス・コンダクト・マニュアル」とともに、社員自らのコントロール・セルフ・アセスメントによって、コンプライアンスを支えています。

コンプライアンス

●行動規範の徹底

P&Gでは、世界各国で働く全社員に行動規範「ワールドワイド・ビジネス・コンダクト・マニュアル」にのっとった業務の遂行を徹底しています。このマニュアルは、企業理念を、日々の業務プロセスにおいて社員が取るべき具体的な行動に落とし込んだものです。いつでも参照できるように冊子やイントラネットに掲載しています。

行動規範の項目例

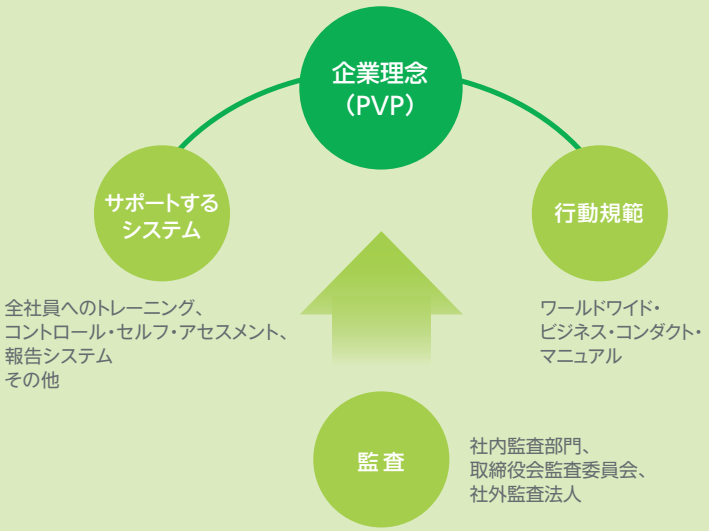
製品の安全性の確保／公正な取引と競争／第三者情報の尊重／正確な帳簿や記録の保持／環境の保護／職場における互いの尊重ほか

●トレーニング、コントロール・セルフ・アセスメント

P&Gでは、全社員が行動規範を十分に理解し、実行するよう年1回のトレーニングを義務付けています。他にも、高い倫理基準で業務を遂行するために必要な知識とスキルを学ぶ様々なトレーニングを用意し、社員が必要なときにいつでも利用できる体制を整えています。原則年1回、社員が業務内容を自己診断する制度を設けており、改善すべき点が見つかった場合には、具体的な行動計画のもと、速やかに対処します。

●報告システム（ヘルプライン）

行動規範に対する違反を発見した場合、社員にはそれを会社に報告する義務があります。そのため匿名で報告できるシステム、「ワールドワイド・ビジネス・コンダクト・ヘルプライン」を導入しています。この運営と監視に当社社員は関与しません。内容は米国本社のセキュリティ部門と法務担当者に報告され、調査が行われます。



内部監査

監査部門は、米国本社を中心とするグローバル組織です。独立性を保ちながら、社内のあらゆる部署を監査する権限をもち、厳格な統一基準に従って、国や地域ごとに監査業務を行っています。監査結果は、米国本社のCFO（チーフ・ファイナンシャル・オフィサー）と社外取締役からなる取締役会監査委員会に直接報告されます。さらに外部の会計監査法人が、内部統制の有効性を評価しています。

リスクマネジメント

危機的状況に陥った際、事態を速やかに収拾し、事業の継続を可能にするため、企業方針に基づいて、部署ごとに詳細な対応マニュアルや、バックアップシステムを用意しています。主なものとして、災害時に備えたマニュアルや、製品に欠陥があった場合の対応マニュアルなどがあります。

サステナビリティ推進体制

環境保全や社会貢献に関する専門家を含め、部署横断的に構成されたグローバル・サステナビリティ組織が、P&Gグループ全体のサステナビリティ戦略の立案と推進を行い、各地域・国ごとに設置した推進チームが、それぞれ国の状況やニーズに即した形で活動を展開しています。日本では2008年に推進チームを設置。社長の責任のもと、主要部門から代表社員が集まって、国内でのサステナビリティ戦略の立案と推進、各部署への落とし込みなどを行っています。サステナビリティに関する最新情報や成功事例は、このネットワークを通じて、各国間、部門間で共有されています。

社員啓発イベントやトレーニングで、サステナビリティへの意識を向上

サステナビリティを実際に遂行するのは人、つまり社員です。あらゆる部門で働く社員が、サステナビリティへの貢献を意識して日々の仕事の中に取り入れるように、また日常生活でも環境保全と社会貢献に積極的に取り組むよう、社員啓発活動やトレーニングを継続的に行っています。

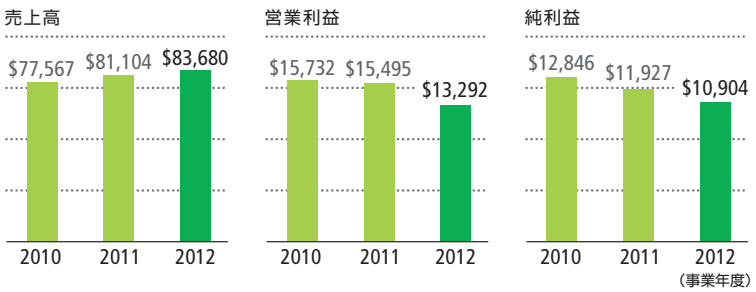
毎年、4月のアースデイの前後に、各国ごとに社員啓発イベントを行っています。昨年度、日本では神戸本社と国内事業所をネット中継で結んで、サステナビリティについて学び、自分たちができることを再確認するイベントを行いました（写真）。「子どもたちのための安全な飲み水プログラム」（16ページ参照）や滋賀工場での環境保全に対する取り組みを紹介するとともに、社員ボランティアの機会拡大に貢献したボランティアプログラムの表彰を行いました。

会社概要（2012年12月現在）

世界のP&Gグループ

米国本社	ザ・プロクター・アンド・ギャンブル・カンパニー
創業	1837年
本社所在地	米国オハイオ州シンシナティ
事業拠点	約75カ国
総社員数	約12万6,000人
製品分野	ビューティー事業、グルーミング事業、ヘルスケア事業、ファブリックケア&ホームケア事業、ベビーケア&ファミリーケア事業

財務ハイライト（単位：百万ドル）



日本のP&Gグループ

日本での営業開始	1973年1月 （プロクター・アンド・ギャンブル・サンホーム株式会社として）
本社	兵庫県神戸市東灘区向洋町中1丁目17番地
東京オフィス	東京都新宿区西新宿3丁目20番2号 東京オペラシティタワー
生産拠点	明石工場（兵庫県）、滋賀工場、高崎工場（群馬県）
主な営業拠点	仙台、東京、名古屋、大阪／神戸、福岡

グループ会社一覧

プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン株式会社
P&G マックス ファクター合同会社
ピー・アンド・ジー株式会社
P&Gイノベーション合同会社
P&Gデザインセンター合同会社

●日本での主な取扱製品

ビューティー &グルーミング分野

ヘアケア製品
- パンテーン
- ヴィダルサスーン
- h&s
- ハーバルエッセンス

ヘアカラー製品
- ウエラ

化粧品・スキンケア製品
- SK-Ⅱ
- マックス ファクター
- イリューム

電気シェーバー ビューティーケア製品
- ブラウン

シェービング用品
- ジレット

生理用品
- ウィスパー

オーラルケア製品
- ブラウン オーラルB

ハウスホールドケア分野

衣料用洗剤
- アリエール
- ボールド
- さらさ

衣料用柔軟仕上げ剤
- レノア

エアケア製品
- ファブリーズ

台所用洗剤
- ジョイ

乳幼児用紙おむつ
- パンパース

ペットフード
- アイムス
- ユーカヌバ

ビジネスパートナー向け（BtoB）事業
- ウエラプロフェッショナルズ
- デュラセル

暮らし感じる、変えていく P&G

サステナビリティ・リポート2012（日本版）

P&Gグループ
〒658-0032 神戸市東灘区向洋町中1丁目17番地
2012年12月発行

発行責任者　北野 美英
編　集　者　岩原 雅子、市川 恵利

本リポートは、日本のP&Gグループの活動を中心に掲載しています。
日本を含めたすべてのP&Gグループの活動は、
グローバル・サステナビリティ・リポート（英語）で報告しています。

P&Gグローバル全社に関する最新の情報は、
http://www.pg.com/en_US/index.shtml
日本のP&Gグループに関する最新の情報は、
http://jp.pg.com/
をご覧ください。

FTSE4Good

Dow Jones Sustainability Indexes
Member 2012/13

P&Gは、FTSE4Good ならびにダウジョーンズ・サステナビリティ・インデックス（DJSI）の創設以来のメンバーです。

©2012 P&G All Rights Reserved.
写真・記事の無断転用を禁じます。

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C022784

Waterless Printing Naturally

VEGETABLE OIL INK

201212